

<早起きは三文の徳>いつもより早くビオトープに行きました。いいことがあるものですね。鳥の羽音のする方向を見ると何とコゲラです。冬場にはキャンパス周辺の雑木林で時々見かけるのですが今の季節にお目にかかるのは初めてです。木の幹に留まりその周りをかなりの速さでクルクルと回る姿がなんとも可愛らしい小鳥です。逆さに留まってこんな芸当をやっていることもあります。大きさはスズメくらいです。



<コゲラ>

<子ぎつね2匹>もうひとつ楽しい発見がありました。南の斜面に植わっている木に少し赤く染まった実が沢山付いています。いろんな形をしていてそのうちの2つが子ぎつねの兄弟のようです。

ゴズイが秋の準備を始めているのです。いろんな花で賑わっていた時期にゴズイは地味な花を咲かせていました。可哀そうにゴズイという名の魚



<ゴズイの未熟な実>



<ゴズイの花>

も木も“何の役にも立たない”という意味らしいですね。い別名があるのです。“狐の茶袋 (キツネノチャブクロ)”

ところがゴズイにも可愛らしいと言います。秋に熟す実の様子から

<儂きもの>のたとえに朝露、ツユクサがあります。池にそそぐ小さな流れの際やビオトープの周りの道端に咲いています。ツユクサは古くは月草 (ツキクサ) という万葉集でも儂い恋の歌として詠まれています。実際、朝露のころ咲いていて昼にはもうしぼんでいます。青色も布に染まらずぬけ落ちます。花の季節に全草を採って干したものは鴨跖草 (オウセキソウ) という薬になり下痢止めや解熱などに用いられたようです。



<ツユクサ>

ツユクサと同じく夏の道端に生える雑草の一つがヘクソカズラです。花も実も可愛らしいのに可哀そうな名前を付けられたものです。ヤイトグサと言って花を手の甲に逆さに付けて遊んだ記憶があります。葉っぱをちぎって嗅いでみましたが名前ほど臭くはないですね。ただ、植物に含まれるペデロシドという化合物が壊れると悪臭のメチルメルカプタンが出そうです。(文と写真：松本正勝)



<ヘクソカズラ>